

JIS L 0001 取扱い表示の記号と意味

①洗濯処理の記号			②漂白処理の記号			④アイロン仕上げ処理の記号		
番号	記号	記号の意味	番号	記号	記号の意味	番号	記号	記号の意味
140		液温は40℃を限度とし、洗濯機で通常の洗濯処理ができる	220		塩素系及び酸素系漂白剤による漂白処理ができる	530		底面温度200℃を限度としてアイロン仕上げ処理ができる
141		液温は40℃を限度とし、洗濯機で弱い洗濯処理ができる	210		酸素系漂白剤による漂白処理ができるが、塩素系漂白剤による漂白処理はできない	520		底面温度150℃を限度としてアイロン仕上げ処理ができる
142		液温は40℃を限度とし、洗濯機で非常に弱い洗濯処理ができる	200		漂白処理はできない	510		底面温度110℃を限度としてスチームなしでアイロン仕上げ処理ができる
130		液温は30℃を限度とし、洗濯機で通常の洗濯処理ができる	③乾燥処理の記号			500		アイロン仕上げ処理はできない
			タンブル乾燥処理					
			番号	記号	記号の意味			
131		液温は30℃を限度とし、洗濯機で弱い洗濯処理ができる	320		洗濯処理後のタンブル乾燥処理ができる 高温乾燥: 排気温度の上限は最高80℃	⑤商業クリーニング処理の記号		
						ドライクリーニング処理		
						ドライクリーニング処理はタンブル乾燥を含む		
			番号	記号	記号の意味			
132		液温は30℃を限度とし、洗濯機で非常に弱い洗濯処理ができる	310		洗濯処理後のタンブル乾燥処理ができる 低温乾燥: 排気温度の上限は最高60℃	620		パークロロエチレン及び記号⑤の欄に規定の溶剤でのドライクリーニング処理ができる。通常の処理
110		液温は40℃を限度とし、手洗いによる洗濯処理ができる	300		洗濯処理後のタンブル乾燥処理はできない	621		パークロロエチレン及び記号⑤の欄に規定の溶剤でのドライクリーニング処理ができる。弱い処理
100		洗濯処理はできない	自然乾燥処理			610		石油系溶剤(蒸留温度150℃～210℃、引火点38℃～)でのドライクリーニング処理ができる。通常の処理
			番号	記号	記号の意味			
190		液温は95℃を限度とし、洗濯機で通常の洗濯処理ができる	440		つり干し乾燥がよい	611		石油系溶剤(蒸留温度150℃～210℃、引火点38℃～)でのドライクリーニング処理ができる。弱い処理
170		液温は70℃を限度とし、洗濯機で通常の洗濯処理ができる	430		ぬれつり干し乾燥がよい	600		ドライクリーニング処理ができない
160		液温は60℃を限度とし、洗濯機で通常の洗濯処理ができる	445		日陰でのつり干し乾燥がよい	ウェットクリーニング処理		
						番号	記号	記号の意味
161		液温は60℃を限度とし、洗濯機で弱い洗濯処理ができる	435		日陰でのぬれつり干し乾燥がよい	710		ウェットクリーニング処理ができる通常の処理
150		液温は50℃を限度とし、洗濯機で通常の洗濯処理ができる	420		平干し乾燥がよい	711		ウェットクリーニング処理ができる弱い処理
151		液温は50℃を限度とし、洗濯機で弱い洗濯処理ができる	410		ぬれ平干し乾燥がよい	712		ウェットクリーニング処理ができる非常に弱い処理
			425		日陰での平干し乾燥がよい	700		ウェットクリーニングはできない
			415		日陰でのぬれ平干し乾燥がよい			